

PRAEVIDENTIA DAILY (10月16日)

昨日までの世界：米指標の予想比悪化でメルトダウン！

昨日は、世界景気減速への懸念が高まっていた中で、牽引役だった米国の経済指標が軒並み市場予想を下回ったことから、米ドル、株価、主要国中長期債利回りが急落し、ドル/円は一時105.18円、ユーロ/ドルは1.2885ドル、ポンド/ドルは1.6068ドル、豪ドル/米ドルは0.8860ドル、NZドル/米ドルは0.7994ドルと、各々2%程度の急変化となった。米株価下落の背景には米経済指標のほか、米企業決算でバンクオブアメリカの赤字転落や米国でのエボラ出血熱の感染拡大リスクも悪材料だった。米2年債利回りは9月下旬の0.6%から一時0.3%割れとほぼ半分になった。

その後、米株価や米中長期債利回りが一部下落を取り戻したことから米ドルも小反発し、ドル/円は106円丁度近辺へ戻して引けている。ポンド/ドルや豪ドル/米ドルは一時米経済指標の発表前の水準まで急反落する局面もみられたが、その後再び発表直後の高値（米ドル安値）へ急反発するなど、非常に値動きの荒い展開となった。他方、ユーロ/ドルやNZドル/米ドルはほぼ上げっぱなし（米ドル下げっぱなし）となった。豪ドル、NZドル、カナダドルなどは米株価に左右される時もあるが、今回は米ドル安が主導となり、むしろ上昇したかたちとなっている。

米経済指標では、小売売上高は総合が前月比-0.3%、コア（除く自動車、ガソリン、建築資材）が-0.2%とコアは予想外のマイナスとなったほか、当社がドル高や輸入物価の下落を受けて指摘していたPPI下振れも実現し、総合、コア共に前年比+1.6%、更にNY連銀製造業景況指数も6.2と市場予想を大幅に下回った。米地区連銀報告でも、景気拡大が「緩慢（modest）」と回答した地区連銀が5先と前回の4先から増え、景気認識は前回比で若干下振れしたかたちだ。なお、小売売上高については前年比でみると総合、コアが各々+4.3%、+4.9%と高い伸びが続いていることには変わりなく、この点への市場の懸念は今後薄れていく可能性がある一方、コアPPIの下振れは今後発表されるコアCPI、コアPCEデフレーターの下押し要因で、インフレ目標2%達成の遅延から米利上げ開始は遠のくだろう。なお、米財務省半期為替報告も発表され、特に米ドル高懸念や円安懸念などを示しておらず、平時であればドル/円の上昇に繋がってもおかしくなかったが、時既に遅かった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-1.1	-0.06	-0.07	-0.01	-0.07	-0.08	-0.01	-0.8	+0.9	+0.1	-1.5
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	+1.4	+0.06	-0.00	-0.07	+0.00	-0.07	-0.08	-3.4	-0.8	-1.5	+0.14
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.7	-0.02	-0.09	-0.07	-0.10	-0.17	-0.08	-2.8	-0.8		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+1.3	+0.07	+0.00	-0.07	+0.08	+0.00	-0.08	-0.8	+0.6	-0.9	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+1.9	+0.04	-0.03	-0.07	+0.06	-0.01	-0.08	-0.8	+0.6	-0.9	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.4	+0.06	-0.07	-0.13	-0.05	-0.08	-0.03	-0.8	+0.1	-0.9	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：原油安のインパクトにも注意

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

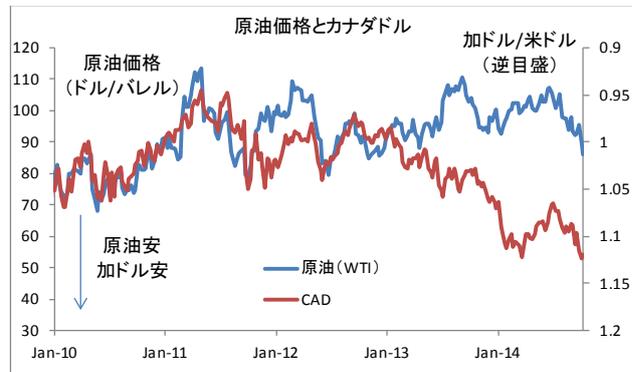
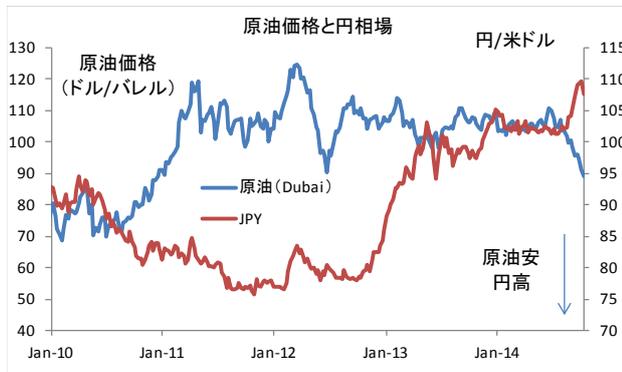
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
米新規失業保険申請件数	21:30	28.7 万件	29.0 万件	
Lockhart アトランタ連銀総裁発言	22:00			ややハト、来年は投票権あり
米 9 月鉱工業生産・前月比	22:15	-0.1%	+0.4%	
米 10 月 NAHB 住宅市場指数	23:00	59	59	過去 4 か月連続改善
米 10 月フィラデルフィア連銀サーベイ	23:00	22.5	19.9	予想通りだと 2 か月連続悪化

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

為替市場での注目は引き続き、世界景気減速懸念を一因とした株安がいつまで、どこまで続くかで、米経済指標は幾つか発表されるものの最重要指標という訳ではないことから、上振れしても世界景気減速懸念を払拭する材料としては力不足で、米利上げ期待もすぐには復活しにくい。こうした中、ドル/円相場については、東京時間は安値拾いのドル買戻しも入るかもしれないが、欧米時間にかけては下押し圧力が続きそうだ。

なお、最近大きく動いているものとして**原油価格**がある。中東情勢の不安定は続いているにも拘らず、世界景気の減速懸念がより強く働くかたちで大幅な下落が続いているが、**ドル/円相場**に対しては、強弱両方の要因となり得る。**ドル売り円買い要因**としては、①米国のインフレ期待・インフレ率低下を通じた米利上げ期待の後退、②原油および原油価格と連動する天然ガス価格の低下圧力を通じた本邦貿易収支の改善（但し時間がかかる）がある一方、**ドル買い円売り要因**となり得るのは、③本邦輸入価格低下を通じたインフレ圧力の低下により日銀のインフレ目標未達リスクが高まり、追加緩和期待を高める、という面もある。現在のところ、③の日銀の追加緩和期待は、本邦景気の増税後の回復度合いと 12 月の首相の追加消費増税の判断と関係が深く、時期的に早過ぎることから、ドル売り円買い要因の方が勝っているとみられる。株価と同様にこれまでの下落が大きかったことから、一時的な反発はあろうが、世界景気減速懸念が払拭されない限り持続的な反発には繋がりにくい。当面はドル/円の追加的な下押し要因として見ておいた方がいいだろう（**下図を参照**）。

ドル/円以外では、原油価格下落は産油国通貨（ロシア、カナダ、ノルウェー、メキシコなど）の売り圧力となる一方、原油輸入依存度が高い国の通貨（インド、韓国、トルコなど）の買い圧力となる（**カナダドルについては下図を参照**）。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641